

ロシアによるウクライナ侵攻から 3 年経った今も終戦の兆しは見えない。そしてイスラエルとアメリカによるイランの攻撃が新たに始まった。この度の戦争で明らかになった大きな問題が、戦時下における原子力の安全性である。ロシアは 2022 年当初からウクライナのチェルノブイリ原発を占拠し、その後、南部のザポリジャ原発を爆撃した。そしてこの度、イスラエルとアメリカはイランの核施設を爆撃した。広島・長崎を経験した世界が、核攻撃禁止の国際条約を締結したにも拘らず、この度の戦争で核兵器を使わない核攻撃が露になった。多数の原発を持ち、原発回帰の政策に舵を切った日本はどうする。

ロシアによるウクライナの原発攻撃

連載 142 にも書いたが、ロシアはウクライナ侵攻から 8 日後の 2022 年 3 月 4 日深夜、ウクライナ南部のザポリジャ原発を爆撃した。稼働中の原発を爆撃したのは史上初めてである。ザポリジャ原発は 100 万 Kw の加圧水型 6 基が稼働中で、当時ウクライナ電力の 20% を供給していた。幸い爆弾は原子炉でなく職員研修施設に当たり全焼したが、原子炉に当たればチェルノブイリを遥かに超える大事故になり、ロシアは勿論ヨーロッパ全域が汚染した可能性がある。現在、ザポリジャ原発は停止し、ロシア軍が占拠して軍事基地化し、そこからウクライナ国内にミサイル攻撃を行っている。ウクライナ軍が攻撃できない事を見越しての戦略である。

イスラエルによるイラン原発の攻撃

パレスチナのガザ地区を攻撃してきたイスラエルは 2025 年 6 月 19 日、イラン西部アラク地区の原発を突然砲撃した。この原発はカナダの原発と同型の重水炉である。燃料に天然ウランを利用出来、核分裂で原爆の原料のプルトニウムが生産出来る特殊な原発である。幸いまだ建設中で稼働していなかったため、放射能の被害は起こらなかったが、爆弾は原子炉の格納容器に命中し、大きな穴が確認されている。イスラエルはこの事を承知の上で爆撃したと思わ

れる。もし、稼働中の原発ならチェルノブイリ級の放射能汚染が生じたと思われる。他にもイスラエルは数か所の核関連施設を爆撃している。その理由は、イランの核爆弾保有を阻止する為、という。他方、イスラエルは 1970 年に締結された国連の核拡散防止条約に署名しておらず、約 90 発の核兵器保有は公然の秘密である。

アメリカのイラン核施設攻撃

そして新たな事態が起こった。アメリカは 6 月 22 日、イランの主要な核濃縮施設 3 か所を爆撃した。この施設にはウラン濃縮施設がある。この施設をアメリカから飛び立った B2 爆撃機 6 機が地中深さ 60m まで浸透して爆発する新型爆弾バンカーバスター（重さ 13.6 トン）を 12 発投下した。爆撃の効果についてイランは明らかにしていないが、ウラン濃縮工場はこうした事態を想定し、地下 100m にあったとされている。

プーチンとトランプは新たな核戦争の扉を開けた。いつの日か世界が滅びる事態が起こらないよう世界の世論の喚起を祈るばかりである。

(2025 年 6 月 23 日 河田)